

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 4月 20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277102063
法人名	医療法人社団 静隆会
事業所名	グループホーム 大平台の家
所在地 (電話番号)	浜松市大平台3丁目36番10号 (053)-482-2900
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年1月12日

## 【情報提供票より】(平成19年10月20日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年4 月1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 11.2	

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4)利用者の概要(平成19年 10月20日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低 73 歳	最高 91 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	西岸スズキクリニック	鎌田歯科医院
---------	------------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浜松市内、佐鳴湖に近く新興住宅地にあり4年目を迎える。住み始めた早期は一面の畑が広がっていた。住宅地は毎年新しい住民が増え近隣はアパート・マンションが建てられている。豊かな人生経験を持つ管理者は開設当所から「一人ひとりの入居者・家族を大切に」の思いは強く介護度軽減の実績もある。運営推進会議の力を借りて”住み慣れた地域づくり”に、正しい知識と温かい受け皿を根付かせようと取り組んでいる。＜玄関ベンチ井戸端会議＞は開設当初から朝の活動という支援タイムで道行く人との交わりを大切にしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念「その人らしく暮らし続けることを支えていくサービス」が掲げられている。管理者以下、信念をもってホーム運営に反映されている。今後この理念を基本として地域密着型サービスの役割を目指した理念を掲げていただくことを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の評価に取り組む姿勢は強く常に前向きである。全員で話し合い改善を目指している。今後、今以上に職員に軌軸を移しホームのデイリーカンファ自己評価のねらいや活用方法を活かした取り組みを期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは家族・自治会長・民生委員・市職員・包括担当者・近隣有志(家主)でホームの管理者の司会で始まる。町内会館で2ヶ月に1回開催され、報告・情報交換の記録がある。館長は地域密着型ホームとして住民に理解と支援を得るために健闘している。今後に期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、金銭管理その他ホームだよりで通信している。又面会時・訪問時の話し合いで苦情を聴き取り、またホーム玄関に”はがきアンケート”を常設している。回収したはがき等を皆で検討し公表してホームの運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域中学生の体験学習受け入れ、入居者が高校生の吹奏楽を楽しむ場面もある。今後、地域リサイクル活動、ホーム機能の地域への還元等ホームと地域の人々が支え合う双方関係について前向きな話し合いを重ねられ地域に根ざして頂きたい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”その人らしく暮らし続けることを支えていくサービス”を開設時よりホームの理念で示している。現在、地域密着型ホームとして”住み慣れた地域”づくりを目指して歩み始めている。	○	信念に基づいたホームの理念を基本として今後、地域に理解を得ながら地域密着型のホームとしての理念が掲げられることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員一人ひとりが”デイリーカンファ記録”のなかで理念に結びついた支援が出来たかどうか自己評価をおこない、互いに意識しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	玄関ベンチ井戸端会議は朝の活動として続けられているが、近隣の環境変化など行き詰まることもある。しかし、老人会行事に参加希望もあり近隣の人達が気軽に立ち寄ってもらえるホームとして、館長は前向きに取り組もうとしている。	○	共に暮らすということは地域の一員として地元の活動や役割を担っていく努力も必要である。地域リサイクル活動・ホーム機能の地域への還元等、ホームと地域の人々が支え合うような双方向関係についての話し合いを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者の評価に取り組む姿勢は大きく、評価の意義とねらいについて話し合い取り組んでいる。常に具体的な改善を目指している。職員はデイリーカンファで自己評価を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは家族・自治会長・民生委員・家主・近隣有志・市職員・包括職員・介護相談員・ホーム職員で2月に1回、管理者の司会で開催、記録を積み重ね、サービス向上に活かしている。その中の1つにホームの前に”横断歩道”設置希望が出ている。館長は今後も地域の理解を得ていきたいと願っている。		

静岡県 グループホーム大平台の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会ある毎に行政と話し合い、ホームのサービス向上を目指している。	○	地域密着型サービスにおいて、ホームの考え方・実情を市担当者によく知ってもらう必要がある。ホームの情報提供と地域状況についての話し合いを重ね、今後も担当者と課題解決に向けての協働をお勧めしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態・金銭管理など毎月の通信で報告している。職員の異動報告は行っていない。(職員の了解を得てから行う事を検討している)		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート(はがきアンケートを玄関に設置、家族はもちろん地域の誰もが利用できる)や訪問時の話し合いで不満・苦情を聴き取り、公表して運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・家族への信頼関係を築く為にも不適切な異動や安易な離職は出来る限り防いでいる。開設4年を迎えようとしている現在、職員の異動は落ち着いてきている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	決められた法人内の研修・希望による外部研修も受けている。特にホームでは働きながらのトレーニングを勧めている。	○	実務に支障を来さないよう充分話し合いながら職員の習熟度に応じた段階毎のホームとしての研修体制づくりが求められる。外部での研修報告書を全職員で閲覧し共有出来るような工夫など、地域密着型サービスの従業者として更なる質向上を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今まで時間的にゆとりがなく同業者との交流はあまりなかった。	○	地域密着型ホームとして同業者同志の研修会・市町村単位の連絡会等、ネットワーク作りを通し互いに協力しながら取り組まれる事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの情報、病院・施設からの情報書類そして、家族・本人との面接を総合して検討を行い、ホームの統一した断定プランをつくり、全職員が傾聴・受容を中心に不安をなくし、無理をしないでホームの生活に馴染んで頂けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のニーズに基づいて柔軟性と応用力のあるサービスを提供され、入居者の自立を大切に生活大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時はもちろんであるが、日々の生活の中で見えてくる本人の意向を独自の支援記録に記録し、カンファレンス等で活用されるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族をはじめ関係者から得られた情報を把握し、それらを介護計画作成時に取り入れている。	○	時間調整の難しさもあるが、カンファレンスには本人、家族の参加できるような体制作りを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状を把握した上で介護計画の目標に沿った支援を行うことにより、車いすから自立歩行、あるいは経管栄養から経口摂取へと移行してきた事例もあり、状況に合わせて随時変更を行っている。	○	支援経過や日誌等、ケアプランと連動した独自の書式を活用し入居者の生活の質の向上に役立っている。状態変化の少ない入居者に対しても、短い周期での目標設定を行うことによってより積極的な支援の継続を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診等、家族で対応困難な部分については送迎や付き添いを行うなど柔軟に対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個々のこれまでの主治医とのかかわりを大切に、本人、家族の希望する主治医としており、複数の医療機関と連携を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の考え方について意向を確認しており、また入居後も状況に合わせ意向の確認を行っている。本人、家族が望めば最後までいられる場所としての方針を打ち出し周知している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	見学時も排泄等プライバシーに関わる部分については、本人の気持ちを配慮し周囲にも気を配りながら声掛けや促しが行われている。また記録類も事務所内で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな日課は決まっているが、入居者個々の生活パターンやその日の状態や気分に合わせて支援を行っている。特に朝食は時間が決まっておらず、個々の時間で対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは入居者それぞれのできることを手伝ってもらい、役割を持ちながら行っている。また職員が全体を配慮しながら声掛けを行っており、和やかな雰囲気の中で食事ができている。	○	毎日生活する中で食事は何よりの楽しみである。「食」を通じた生活面での新たな取り組み、職員も生活を共にしている者として入居者と同じものを同じ時間に一緒に楽しめるという計画も、組み込まれる事をお勧めしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務体制と安全面を考慮すると現状夜間などの時間帯での入浴は困難であるが、決められた時間の中で、入居者個々の希望や体調、その日の都合に合わせて対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は個々の特性に合わせて炊事などの生活の中での役割を持ってもらっている。その他散歩や外出、家族との交流など随時気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	状況や希望に応じて外出やホーム周辺への散歩にでかけている。また敷地内ではあるが、毎朝建物から出て玄関横のベンチにて「井戸端会議」を行うのが習慣となっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによって入居者に与えるストレスの影響は理解しており、原則施錠はしていない。入居者の個々の特性を踏まえた上での見守りを行っているが、生活を支援している中で職員が薄くなるときもあり、まれに例外的に時間を限って施錠することもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と協力の中で避難方法等の指導を受けており、職員もどこまで避難させればよいか理解をしている。また災害時のための備蓄も用意されている。	○	緊急時の対応に対する職員の不安を軽減するためにも、夜間や昼間などあらゆる場面を想定した避難訓練を定期的に実施することが期待される。また緊急時は職員だけでは対応困難なことも多く、地域の自治会との協力体制等、運営推進会議の場などを活用し検討されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注の給食中心であるが(朝食は手作りである。栄養面等希望を伝え随時改善してもらっている。摂取量については毎食記録をしており、水分についても同様にチェックして、一日の摂取量を把握し支援に役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームではあるが、「家」として生活の場を基本としており、集団生活を感じさせるような必要以上の装飾等はされておらず自然である。生花が所々に飾られ、季節を感じられると共に明るい雰囲気作りに役立っている。また借景ではあるが、子ども達が遊ぶ公園の見える大きな窓は入居者の情緒面の安定に貢献している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台や位牌などこれまでの生活の中で馴染んでいたものを持ち込んでもらっており、それぞれ入居者の個性ある部屋の環境が作れるように努めている。		